

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501969		
法人名	有限会社 札幌福祉サービス		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条6丁目1番25号 (電話)011-896-6517		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月19日	評価確定日	平成22年1月4日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地にある2階建て1ユニットで民家改築型のグループホームである。隣には園芸センターの緑地が広がり、周辺には公園も複数あり、緑が多く季節を感じられる自然環境となっている。建物内は家庭的で温かみのある雰囲気、職員は介護度の高い利用者にも心のこもったやさしいケアを実践している。4項目からなる明確なホームの理念を持ち、職員の理念の理解度も高い。運営推進会議は多様な参加者を確保しつつ、お互いに知識を高め合う取り組みが行われている。また、介護計画の作成についても、利用者の生活歴やできることできないことなどを記したアセスメントシートを3ヶ月ごとに担当者を替えて作成したり、職員全員が参加するミーティングで協議して見直しを行うなど、ホーム全体で利用者の介護にあたる姿勢が感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の取り組み項目については「職員を育てる取り組み」について研修機会の増加を実現し、他の項目も継続的に取り組む方針としている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は各職員に評価表を配布し、記入されたものをもとに管理者が取りまとめしている。外部評価の結果と合わせて再度自己評価項目の具体的な取り組みも検討する方針である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は2ヶ月に1度、町内会長、介護予防センターや地域包括センター職員、利用者家族、代表者などが参加して開催している。介護保険情報や権利擁護などをテーマに設定し意見交換を行っている。外部評価結果も話し合わせ、議事録も整備されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の来訪時に積極的に話しかけて要望を引き出すようにしている。また玄関に意見箱やアンケートも設置しており、重要事項説明書に外部の苦情相談機関を明示している。来訪が少ない家族もいるので、今後は、ホーム便りの発行頻度を増やすなど積極的に家族に暮らしぶりを伝えるような取り組みに期待したい。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩や買い物の際に近所の方に声かけしている。利用者の介護度が高まり最近では町内会行事への参加は減ったが、町内会長が果物を届けてくれたり、囲碁のボランティアが毎週訪問してくれている。今年のクリスマスには小学生がプレゼントを持って来てくれる予定である。

【情報提供票より】(平成 21年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 4月 21日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	7人、非常勤 3人、常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~55,000円 生活保護36,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:16,000円 暖房費:5,000円(11~3月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	月額 40,000円			

(4) 利用者の概要(12月 19日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル、ハーブ歯科矯正歯科
---------	----------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の4番目に「地域住民との交流に努め、地域福祉の増進に努める」という文言を入れ、地域密着型サービスとしての理念を確立している。運営方針にも地域との交流を重視した文言を記している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をホールの壁や管理室に掲示し、職員がいつでも見られるようにしている。また、ミーティング時などに内容を確認しており、職員は理念の内容を理解し日々の介護にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物の際に近所の方に声かけしている。利用者の介護度が高まり最近では町内会行事への参加は減ったが、町内会長が果物を届けてくれたり、囲碁のボランティアが毎週訪問してくれている。今年のクリスマスには小学生がプレゼントを持って来てくれる予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に評価表を配布し、記入されたものをもとに管理者が取りまとめている。前年の外部評価の取り組み項目については「職員を育てる取り組み」について研修機会の増加を実現し、他の項目も継続的に取り組む方針としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、町内会長、介護予防センターや地域包括センター職員、利用者家族、代表者などが参加して開催している。介護保険情報や権利擁護などをテーマに設定し意見交換を行っている。外部評価結果も話し合わせ、議事録も整備されている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は区の管理者会議や研修に参加して、市職員との話し合いの機会を持っている。また、運営推進会議に介護予防センター及び地域包括支援センター職員に参加してもらい情報提供をいただいている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の近況を伝えており、来訪が少ない家族には電話連絡を行っている。ホーム便りを作成し家族に送付しているが、現在の発行は3ヶ月に1回で、利用者ごとの個別のお便りなどは作られていない。		ホーム便りの発行頻度を増やしたり、時には利用者ごとのお便りや写真を家族に提供して暮らしぶりを伝えるような取り組みに期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に積極的に話しかけて要望を引き出すようにしている。また玄関に意見箱やアンケートも設置しており、重要事項説明書に外部の苦情相談機関を明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動がある場合は利用者にダメージを与えないよう、表現や説明を工夫し、辞めた後も遊びに来てもらうなどしている。引き継ぎ時は、新しい職員が日勤、夜勤とも2回ずつ先輩職員と2人で勤務し、指導を受けてから引き継ぐシフトを組むようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営推進会議にて代表者より介護関連の情報提供が行われ、職員も参加し勉強している。外部研修は、区内のグループホームの勉強会にほとんどの職員が参加している。一方、職員の段階に応じた育成計画を立てるまでには至っていない。</p>		<p>職員の能力や意向に沿って段階的な育成が行えるよう、中長期的な計画を立てて、研修を受講させたり資格取得を奨励するなどの取り組みを期待する。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は区のグループホーム管理者連絡会に積極的に参加しており、同業者と交流する機会がある。また、連絡会で企画した他のグループホーム見学会に職員を参加させており、職員も他のグループホームのサービスを参考にして自らのサービス向上に役立てている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者は利用開始前にホームを見学に訪れたり体験入居を行い、納得、安心した上で入居を決めている。利用開始後は、生活歴や本人の情報をもとに話しかけを行い、場合によっては初期の家族の訪問頻度を抑えてもらうようにできるだけ早く馴染めるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、戦時中の話や昔の苦労話などを教えてもらっている。夜勤時に職員に「ありがとう」「ごくろうさん」など、いたわりの言葉をかけてくれる場面もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者との関わり合いの中で思いや言動、仕草などから把握するよう努めている。センター方式のアセスメントシートを活用し、3ヶ月ごとに担当者を替えて作成するなど、新たに得られた情報を加えて職員間で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時にアセスメント担当者がアセスメントを行い、計画作成者が計画の原案を作成する。その後、管理者や職員の意見交換を経て本計画を作成し、本人や家族の意向を再確認し、家族に意向を手書き記入してもらっている。計画内容は家族に説明され、確認の署名捺印を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間を3ヶ月に設定して介護計画を見直しており、状況変化や入退院時の都度の見直しも行われている。見直し時には全職員が参加するミーティングでカンファレンスが行われ、評価内容を計画作成担当者がまとめ、次の計画に反映している。ミーティングの記録も整備されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院への送迎を行ったり、希望に応じた買い物の支援を行っている。訪問の理美容も利用している。遠方からの家族の来訪時には、食事を余分に作り、一緒に食べてもらうこともある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度、提携医療機関による往診を受けており、月3、4回の歯科医の往診もある。その他の受診は家族対応としているが、困難な場合はホームで送迎・付き添いしている。受診結果についても管理者から家族に適切に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が発生する場合以外はできるだけホームで対応する方針としており、利用開始時に家族に説明している。また「医療連携体制の確保と重度化・看取り対応指針」を説明し、看取り介護についての同意書をもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段の言葉かけは状況に応じて使い分け、トイレ誘導などもプライバシーに配慮している。個人情報に関する書類は事務所に安全に保管・管理しており、個人情報の取り扱い方法もパンフレットに明記している。来訪者の受付簿は設置せず職員が記録している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが利用者は自由に過ごすことができている。利用者のその日の体調や気持ちに合わせて起床時間や食事時間を調整したり、夜テレビをもう少し見たいという場合は就寝時間を遅くしたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けを手伝ってもらう場面は減ったが、誕生会で食事の希望を取り入れるなどの支援をしている。食事は彩が豊富で、職員は利用者と同じ食卓で楽しく話しかけて食事しており、食べやすく手を加えたり、野菜や果物の苦手な方にはジュースやヨーグルトにするなど工夫して提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後を中心に毎日入浴することができ、各利用者が週2回以上の入浴を行っている。体調に合わせて午前中の中の入浴も可能である。拒否のある場合は日にちをずらし、入浴の長さも利用者の希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付けを手伝ってもらう場面は減ってきたが、囲碁や大正琴、電子オルガンなどの趣味を継続している利用者もいる。囲碁にはボランティアの方が毎週来て相手を務めてくれている。テレビの歌番組や大相撲を利用者に楽しんでもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護度が上がり、散歩ができる利用者は2名程度に減っている。介護度の高い利用者のケアと職員配置の関係もあり、十分に散歩に付き添えない時もあり、日常的には玄関周りで日光浴をするなどしている。行事での外出も徐々に減少している。		利用者の状況に合わせて短い時間での外出を行ったり、運営推進会議にてご家族や地域のボランティアに協力を呼びかけ、ホーム内での見守りや車椅子を押してもらうなどのお願いをして、少しでも外出ができるよう取り組むことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけていない。利用者の出入りがある場合は玄関内戸のセンサーが鳴り、外出がわかるようにしている。近隣の方に見守り連絡などを依頼している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間及び日中を想定した避難訓練を実施しており、運営推進会議にて近隣の方や町内会に訓練の参加や緊急時の協力を呼びかけている。また、職員は救急救命訓練も受講している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録しており、水分摂取が不足する場合はゼリーなどを提供して水分を確保できるようにしている。献立は職員が栄養バランスやカロリーに配慮して作成しているが、栄養士などのアドバイスはまだ受けていない。		献立に関して保健所や提携医療機関に協力を依頼して、定期的に管理栄養士などのアドバイスを受けられるような仕組みづくりを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは隣接する園芸センターの樹木やサイロが望め、室内には落ち着いた家具や調度品が置かれている。また、壁には利用者の写真や季節の装飾が施され、上品な絵や時計も数多く設置されている。明るさや温度・湿度、音なども調整され居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの家具や使い慣れた品物が持ち込まれており、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が写真やカレンダーなどを飾り付け、居心地よく暮らせるように工夫がなされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。